

「食べる」「から考える、豊かさとは？」



「飢え」から高度成長を経て「飽食」に。やがて「個食」「孤食」に。そして令和の「コメ不足」。私たちは、誰と何を食べて「どこ」まで生きてきたのでしょうか。「食べる」をキーワードに、日本の近代、そして戦後80年をふりかえります。暮らしの豊かさとはなんでしょうか。図書館で、一緒に考えてみませんか。

第1回

食べること、生きること ～胃袋の近現代史～

日時 **8月10日** (日) 10時～12時

講師 **湯澤規子さん** (法政大学教授)

場所 **中央図書館** (オンライン配信あり)



「食べること」は個人の行為ですが、同時に時代や社会を体現する営みです。第1回の講演では、湯澤規子さんをお招きし、近現代の人びとが、何を、誰とどのように食べてきたのかをふりかえります。家庭、地域、社会、制度に埋め込まれた「食」を見つめ直すことで、豊かさとは何か、そして、私たちの今とこれからを考えます。



湯澤規子さん 法政大学人間環境学部教授。「生きる」をテーマに当たり前の日常を問い直すフィールドワークを重ねている。専門は歴史地理学。主な著書に『胃袋の近代—食と人びとの日常史』(名古屋大学出版会) 同書で、生協総研賞第12回研究賞、第19回人文地理学会賞(学術図書部門)を受賞。『7袋のポテトチップス—食べるを語る、胃袋の戦後史』(晶文社)、『ウソはどこから来て、どこへ行くのか』(ちくま新書)、『焼き芋とドーナツ—日米シスターフッド交流秘史』(KADOKAWA)、同書で第12回河合隼雄学芸賞を受賞、などがある。

第2回

食で読み解く真庭の歴史—日常と飢饉・戦争

日時 **9月15日** (月・祝) 14時～16時 場所 **中央図書館**

講師 **前原茂雄さん** (歴史学者・蒜山郷土博物館長)

真庭の食生活には、どのような特徴があり、どのように変化してきたのでしょうか。食をめぐる社会の変化や真庭ならではの地域的特質を、歴史学者の前原さんに語っていただきます。



第3回

映画『水になった村』上映会&トーク

日時 **10月25日** (土) 13時～16時 場所 **湯原図書館**

講師 **大西暢夫さん** (写真家・映画監督)

山菜採り、トチ餅作り…ダムの底に沈む廃村に舞い戻ってきた老人たちが教えてくれた変わらない山の生活の工夫と知恵。監督の大西さんをお迎えし、豊かさとは何かをあらためて考えます。写真展も同時開催。



*第2回、第3回についての詳細は後日お知らせいたします。

定員 各回 30人 参加費 無料

申込方法 中央図書館へ来館、電話

または申し込みフォームで申し込み →

問い合わせ先 中央図書館 0867-44-2012



各図書館で開催! 7月19日～8月24日

関連企画「教えてあなたの『食べものがたり』」

あなたの「あの時食べた〇〇はおいしかったなあ」を教えてください。

